

2019年3月9日(土)から14日(木)まで、第64回ICANN(Internet Corporation for Assigned Names and Numbers)神戸会議(ICANN 64神戸会議)が開催されます。日本でのICANN会議開催は実に19年ぶりです。本稿では、このICANN 64神戸会議についてお伝えします。



メイン会場となる神戸ポートピアホテル

ICANNとは

ICANNは、次に挙げるインターネットで使われる一意の識別子(論理資源)：

- ドメイン名
- IPアドレス
- プロトコルポート番号およびパラメーター番号

およびDNSルートネームサーバシステムを民間主導でグローバルに調整する目的で、1998年10月に米国で設立された民間の非営利法人です。ICANNでは、インターネット資源管理に関連するルール(ポリシー)について国際的に活発な議論を行っています。

ICANN会議とは

会議内容およびICANNコミュニティ構成メンバー

インターネットにおける通信が成立するためには、インターネット資源(ドメイン名、IPアドレス、AS番号)がグローバルに重複がないよう、一意に割り当てられる必要があります。

ICANN会議は、このインターネット資源の分配についてのポリシー、とりわけドメイン名に関する分配ポリシーについて、ICANNコミュニティ構成メンバーが議論を行い、策定するために開催されます。正確には、ICANNはインターネットで使われる一意の識別子の管理と、そのための方針策定に責任を持ちます。ただしIPアドレスについては方針策定および管理の両方について、最上位階層が対象となるグローバルポリシー以外はNRO(Number Resource Organization)が行っており、プロトコルポート番号およびパラメーター番号についてはIETF(Internet Engineering Task Force)が方針を策定(管理はIANA(Internet Assigned Numbers Authority))しています。国コードトップレベルドメイン(ccTLD)も、それぞれの国が方針を策定し、また管理も行っています。そのため、ICANNでのポリシー議論は主に分野別/一般トップレベルドメイン(gTLD)が対象となっています。加えて、全世界に広がるインターネットを対象としていることもあり、ICANN全体の管理体制に関する議論もこれまで継続的に行われてきています。

ICANNコミュニティ構成メンバーは、大別すると次の2種類のグループからなります。

- 支持組織(Supporting Organization, SO)：ICANNの各分野に関連する方針策定について、理事会を支援し勧告を行う役割を負う組織です。
- 諮問委員会(Advisory Committee, AC)：理事会に対し専門的立場から助言を行う組織です。

次に示すように、SOは3組織、ACは4組織あります。

1. 一般/分野別ドメイン名(gTLD)利害関係者のグループ(分野別ドメイン名支持組織、GNSO)
2. 国別ドメイン名(ccTLD)を管理している事業者のグループ(国コードドメイン名支持組織、ccNSO)
3. IPアドレス、AS番号を管理している事業者のグループ(アドレス支持組織、ASO)
4. 各国政府代表からなる諮問委員会(政府諮問委員会、GAC)
5. 一般インターネット利用者からなる諮問委員会(At-Large諮問委員会、ALAC)
6. セキュリティと安定性のための諮問委員会(セキュリティと安定性に関する諮問委員会、SSAC)
7. ルートネームサーバ運営者からなる諮問委員会(ルートサーバシステム諮問委員会、RSSAC)

GNSOについては、さらに利害関係者別に次の部会(ConstituencyまたはStakeholder Group)があります。

- 1.1. ICANNと契約関係にありドメイン名の台帳を管理している事業者(レジストリ)の部会(レジストリ部会、RySG)
- 1.2. ICANNと契約関係にありドメイン名登録サービスを販売している事業者(レジストラ)の部会(レジストラ部会、RrSG)
- 1.3. ドメイン名利用者としての一般企業を代表する作業部会(ビジネスユーザー部会、BC)
- 1.4. 知的財産関連の弁護士等からなる作業部会(知的財産部会、IPC)
- 1.5. ドメイン名利用者としてのインターネットサービス提供事業者等からなる作業部会(インターネットサービスプロバイダー・接続プロバイダー部会、ISPCP)
- 1.6. ドメイン名利用者としての非商用関係者からなる作業部会(非商用ユーザー部会、NCUC)
- 1.7. 非営利団体・国際機関からなる、これら団体へのサービス提供に関する運用についての関心事を表明するための作業部会(非営利運用関連関係者部会、NPOC)

ICANN会議では、他に最新技術の共有、ICANN自身の運営についての会議、ICANN自身の理事会(公開で行われます)なども会期中に開催されます。

ICANNのポリシーについては、ICANN会議の場だけではなく、普段からメーリングリストや電話会議などで議論されており、それを補完するものと言うことができます。ですので、単一のICANN会議だけで決まることはそれほどありませんが、ICANN会議で新たな議論が開始されたり、継続して行われた議論がICANN会議で収束したりすることはあります。また、非言語的コミュニケーションによる補完、思わぬ偶発的発見/出会い、コミュニティ横断的な議論や参加者同士が親睦を深める機会などのメリットは対面会議ならではのものです。

会議開催形態

ICANN会議は年3回開催され、各回は異なった地域の持ち回り開催となります(ICANN 63は欧州、ICANN 65はアフリカで開催)。加えて、三つのフォーマット*があり、ICANN 64神戸会議はコミュニティフォーラムとなります。

いよいよ開幕

ICANN
COMMUNITY FORUM

KOBE
9-14 March 2019

ICANN 64
開催概要

開催期間》2019年3月9日(土)～14日(木)
会場》神戸国際会議場、神戸ポートピアホテル
参加予定人数》約2,000人

ICANN会議の参加登録料は無料です。ICANN会議に現地参加できない方のために、ほとんどのセッションは遠隔参加が可能となっています。また、多くのセッションは録音され発表資料や録音は公開されます。主要なセッションでは、リアルタイム発言録がインターネットで公開され、主要な言語(国連公用語6ヶ国語等)での同時通訳も付きます。なお、ICANN 64神戸会議では、一番大きな会議部屋で開催されるセッションについては日本語の同時通訳が入る予定です。

ICANN会議に参加する理由

なぜ多くの参加者(コミュニティフォーラムと年次総会では約2,000名)が、ICANN会議に参加しているのでしょうか。ここまで読んでICANN 64神戸会議に興味を持たれた皆さんが、実際に参加してみたいくなるような理由をいくつか挙げてみます。まず一般的には、20年にわたり行われてきた、世界随一のマルチステークホルダープロセスによるポリシー策定議論の元祖と言ってもよいICANNの、関連な議論プロセスをこの目で見るまたとない機会になるということが挙げられます。

ドメイン名に興味のある方：対象はさまざまですが、主にGNSOで議論されているドメイン名関連ポリシーの策定に関与したり、動向を追ったりすることが第一義的な理由になるのではないのでしょうか。ポリシー議論については、「直接のビジネス上の利害が絡む関係者だけで議論すればよいではないか」とお考えの方がいらっしゃるかもしれませんが、そうすると一般の利用者に不利な取り決めがされてしまうかもしれません。多様な関係者が参加するマルチステークホルダーモデルであるからこそ、物事を色々な観点から検討することができるという見本を、皆さん自身で体験してみてください。

ネットワーク技術者の皆様：ドメイン名およびDNS関連の技術情報に関する議論へ参加できます。SSACおよびRSSACについては技術的なトピックを扱うので、技術者の皆さんには各国ネットワーク運用者グループ(NOG)、IETF、OARCに加えてもう一極として、興味をお持ちになる対象ではないかと思えます。

ICANN 64神戸会議の注目トピック

ICANN会議では多岐にわたる議論が行われますが、ICANN 64神戸会議では、次のトピックが注目されています。

gTLD登録データ(WHOIS)をGDPR(EU一般データ保護規則)に適合させるための暫定仕様に関するポリシー策定：

2018年5月にICANN理事会が承認した、暫定仕様書を1年以内で正式仕様にするための検討が行われています。予定では、ICANN 64神戸会議開催時には議論は終わり、意見募集中となっています。併せて、暫定仕様書では検討待ちとなっている、非公開データ項目に対するアクセス認定メカニズムの議論に向けた、いわゆる統一アクセスモデル(UAM)の検討も行われています。

次期新gTLD募集手続きポリシー策定：

2012年にICANNが新gTLDプログラムを開始し、その後の数年でgTLDが1,200以上増えました。その次のgTLD募集における申請受付ポリシーについて

の議論が2015年より開始され、2012年のgTLD申請受付ポリシーを基にそれを改善すべく議論が続けられています。予定では議論は2019年夏頃まで続くことになっており、ICANN 64神戸会議開催時点ではまだ議論中となります。

会議参加者の受け入れ体制

ICANN会議の準備および運営のほぼすべては、ICANN Organization(事務局)によって行われています。一方、それとは別にICANN会議では、現地組織が対処すべきこと、またそうした方が効率的なものについて、開催地ごとにローカルホスト(開催地運営組織)が名乗りを上げてサポートすることが多くなっています。ICANNが定めるローカルホストの責務とは、主に次のものが挙げられます。

- ICANNが会場・宿泊施設・さまざまなサービスを探すことの支援
- 関連各所(開催地の政府当局等)との調整
- 参加者に対する支援(ビザ発給のための招聘状発行など)

ICANN 64会議開催地の応募に当たって、日本からの提案には「ローカルホストの責務は日本のインターネットコミュニティの主なステークホルダーからなる委員会が負う」と記載されました。開催地応募は日本以外からもありましたが、前述の体制に基づく提案が高評価を受け、選定につながったようです。

この提案を実現するオールジャパン体制として、ICANN 64ローカルホスト委員会(LHC)が2018年9月25日に設立されました。

LHCメンバーの一覧は、次のページをご覧ください。

ICANN 64 ローカルホスト委員会

<https://www.icann64.jp/>

なお、JPNICはLHCのメンバーであると同時に、LHC事務局として調整などの業務も行っています。

LHCはこれまでに、バルセロナで開催されたICANN 63において、ICANN 64神戸会議に関するプロモーション活動を行った他、ローカルホストの責務を果たすために必要な活動を行っています。ローカルホストの責務のうち主なものは次の通りです。

- インターネット接続性提供の準備(ネットワークスポンサーにより提供されます)
- ガーライベント(懇親パーティ)の立案、費用調達、開催
- 海外からの参加者向けビザ招聘状の発行
- 開会式の話者調整
- 政府当局との調整

ICANN 64神戸会議にご関心を持っていただけましたでしょうか。ぜひこの機会にご参加いただき、インターネットの根幹を支えるマルチステークホルダーによる議論を体感してください。

※ ICANN会議
のフォーマット

コミュニティフォーラム：年3回のうちの1回目、毎年2～3月に6日間の会期で開催される中規模の会議

ポリシーフォーラム：毎年6月に4日間の会期で開催される小規模な会議

年次会合：毎年10～11月にかけて7日間の会期で開催される、最も大規模な会議

詳細は、「ICANNの会議種別とは」<https://www.nic.ad.jp/ja/basics/terms/icann-meeting-strategy.html>をご参照ください。